

<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

平成 30 年 7 月 19 日発行

No. 6 校長 矢口 仁



高き希望に（第五中学校だより）

夏休みには読書を！ —豊かな疑似体験— 校長 矢口 仁

ひとつひとつ
かたずけてゆくんだね
具体的にね

相田みつを



いよいよ夏休みに入ります。これほど長く自分の意思で自分の時間を使える期間は、他にはありません。だからこそ、自己を成長させるために具体的な目標をもち、計画を立てて、こつこつと実行し、健康的に過ごしてほしいと思います。そして、夏休みにはぜひ「読書」に取り組んでほしいものです。読書は言葉や知識を豊かにし、出会いによって人間の幅を広げられるものですから。

私たちが人と付き合っていく中で、人とぶつかる場面が時々あります。相手の考え方はおかしいと不満をもつこともあります。しかし、もしかしたら自分の方が誤っているのかもしれない。それは、私たちが今までの限られた体験や知識をもとにして物事を考え、判断することが多いからです。

だとしたら、体験の幅を広げ、様々な人の考えや生き方に触れ、言葉や知識、経験を豊かにしていくことが、客観的な判断・考え方に近づいていくことになります。その一助となるのが、「読書」による疑似体験（本物とよく似た体験）でしょう。

以前のNHK大河ドラマ『花燃ゆ』に次のような場面がありました。

幕末、松下村塾で学ぶ若者が、これからの日本がどうあるべきかについて、真剣な議論をしています。その中で、学ぶことが大切だ、様々な文献を読むことが必要だと主張する一人の若者が、力強く語ります。

「本は文字ではない。本は人じゃ。開けば、触れることができる。他の人の考えに。江戸におる人にも、外国におる人にも、とうの昔になくなった人にも、出会うことができる。同じく悩んで、同じく答えを見つけようとした誰かがおって、教えてくれる。その人の目で見たと、世の中の、人生のあらゆることを教えてくれる。生きるに迷うとるんは、自分一人じゃないことを……。」

私たちが経験できること、会うことのできる人の数には限りがあります。しかし、本の世界では時代を越え、国を越え、見知らぬ人と出会い、様々な体験をすることができます。そのことが、自分を豊かにすることにつながります。

この夏休み、より多くの人との出会い・貴重な体験を読書で味わってほしいと思います。計画を一つ一つ着実に実行し、有意義な夏休みを過ごしてください。